

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>入居者の共同生活を利用者本位のものにし、一人ひとりの尊厳と自立を考えるよう作りあげている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>運営理念を各階の目立つ所に掲示している。また、具体化して身近な言い表し方にした。朝の引継ぎ時に、言葉に出して1日の始まりの挨拶としていたが最近はできていない。</p>	○	朝の引継ぎ時に前のように、1日の始まりには挨拶として言葉に出していきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>ホームの理解を得られるように施設の新聞を発行し、家族や入居者に見てもらっている。また、月間行事内容のポスターを地域の商店に提示させていただいている。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>近隣の商店などポスターを掲示していただき施設行事を周知している。</p>	○	大きな行事はポスターを掲示して参加して頂いているが、普段から気軽に立ち寄っていただけるように挨拶など取り組んで行きたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>地域との連携が図れているとはまだまだいえないが、自治会長に協力や助言をいただき、子ども会との交流や近くの保育所との交流にも取り組んでいる。また、地域の行事に参加している。</p>	○	自治会長、民生委員に相談しながら地域活動や地元の人々との交流に努めていきたい。どでかぼっちゃ作りで保育所との交流ができ、ハロウィンには保育所の訪問がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設からの外出や散歩時・行事前などに、公園内のゴミ拾いを利用者と共に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットミーティングの場や業務の合間などにスタッフ間で話し合い、月1回全体会議としての場も設けている。具体的にどうするか改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議のメンバーに行事参加や助言していただいたことを全体会議等で話し合い、質の向上に取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者に連絡を取り、より良い運営ができるよう相談や情報収集を行っている。また地域の公園の利用、車いすや夏祭りのちょうちんの借用等市町村と連携しながら質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について理解するために勉強会を行ったが、まだ活用する機会がない。	○	必要な人にいつでも活用ができるように再度学ぶ機会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段からどのような内容が虐待にあたるか指導し、常に虐待のないよう注意を払っている。	○	どのような内容が虐待にあたるか、これからも全員で虐待について考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内時に入居者及び家族等に契約書や重要事項説明書等の疑問点等を尋ねながら十分に理解していただけるよう、分かりやすく説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月傾聴ボランティアを受け入れている。利用者の意見や面会時の話し合いの内容等、家族会に意見をいただいている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回担当者が月間報告書という形で、日常生活や体調や体重・血圧など通院受診時の内容について報告している。また、家族面会時には必ず状況報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議にて、気軽に意見・不満などを表せる関係作りを心がけている。家族等の意見はユニットのミーティング、全体会議、連絡ノートで周知し、運営に反映されている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニットミーティングで意見を聞いている。また、各担当者において個別に意見を聞く機会を設けている。常々意見や提案を聞くように心がけている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者に迷惑をかけないように、調整を行っている。また、外出等行事の際には前もって密な体制を心がけている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動はできるだけないように考えている。外出時や行事参加時においてユニット間の交流や全職員が各ユニットの利用者について理解・対応できるように取り組んでいる。やむを得ず、職員が異動する場合には、日中の勤務から配置換えをし、ゆっくり馴染んで頂けるよう配慮している。	○	各ユニットにおいての利用者の理解や介護において対応できるよう全体会議での状態報告を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>それぞれに段階に応じた研修を進めたり指導をしている。また、研修してきた内容について勉強会にも取り入れている。</p>	<p>○</p> <p>質の向上の為に職員育成の為に研修を受けていけるよう取り組んでいきたいと思う。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会や研修会等で一緒になった同業者と意見交換をしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>利用者から離れて休める場所(休憩室)を設けているが利用できていない。サービスステーションの中で、座ってコーヒーなどを飲んでいく。</p>	<p>○</p> <p>交代制の勤務を生かし、タイムテーブルに定められた、休憩時間を状態状況に応じ互いが取れる環境にしていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員全員に何らかの形で施設内での役割や各担当を設けている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から利用に至るまで本人自身からはなかなか話を聞けない。(家族の意見・相談が中心である)</p>	<p>○</p> <p>面接時に時間を沢山作り、ゆとりを持って不安な事、求めている事等本人自身から、よく聴けるよう努めていきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接チェック表の記録を取りながら、少しでも沢山の事が受け止められるよう努めている。家族の要望は全体スタッフミーティングを通じて、全職員が共有できるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の説明をして、本人・家族の実情や要望をもとに何が 必要かを見極め、事業所としてできる限りの対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用の開始等、本人や家族と相談しながら取り組むよう努めている。(行事参加後から利用される等)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理、洗濯、掃除等、日常生活の中で出来ることを見つけ出し、支援しながら共に行っている。また回想法を通して昔の暮らしや知恵などを教えていただいている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	個別ケアに取り組む中、職員に担当の利用者(部屋担当)を設けている。月間報告書とは別に利用者の変化の連絡等、家族等と連絡を取りながら利用者を支える関係を築いている。	○	家族と本人の様子や状態を話す中、受診や本人の好きなものを持ってきていただくなど、共に相談しながら取り組んでいる。これからも継続したい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常生活において利用者の生活の中で会話をしっかりと受け止め家族等にメッセージとして伝えて差し上げる等、より良い関係が築いていけるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等と連絡を取り、知人・甥・姪・孫等に面会に来ていただいたり、家族等との外出もしていただいている。	○	これからも家族と連絡をとり可能な限り、墓参りなど馴染みの場所への外出を勧めていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が色々な場面で声を掛け合い支えるような空間作りに努めている。(例:ちぎり絵等の共同制作)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了した本人や家族等に、何かあったらいつでも相談や支援に応じる姿勢を示している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の嗜好品、お酒、煙草等について希望や意向を聞き、取り入れるように努めている。また、各個人の入居前の生活歴を把握し、馴染みやすい環境作りに努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を職員全員が共有できるようにしている。利用者本人が自分らしく生活していく支援として、個々の歴史やサービス利用に至る前の生活がしていけるよう努めている。(回想法の導入など)		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の生活の流れや過ごし方を職員全員が見落としなく理解できるよう、介護記録の書式の見直しに取り組み活用に努めている。	○	ユニットミーティングの時に介護記録の記述の向上(分かりやすい・目に浮かぶように)を目指して指導している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回、介護支援専門員と利用者担当のスタッフを中心にミーティングの場でそれぞれの意見やアイデアを出し合っており、介護計画の見直しや作成をしている。	○	全員参加できていないので、極力多くの職員が参加できるようにしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護経過を確認しつつ、体調の変化等何か問題があると捉えられた時、連絡ノートでスタッフに確認し、管理者・介護支援専門員及び家族と打ち合わせた上で、臨機応変に見直している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別通院受診ファイル、業務日誌で対応しており見やすく介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族状況や要望に向き合い、職員全員で話し合う等、本人の生活の安定と家族との交流を重視し、支えることを大切に支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	博物館・公園等に訪問するようにしている。近隣の喫茶店を月に1回開放していただき、外出でのコーヒータイムを楽しんでいただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の選択肢を増やすよう希望の美容院にお連れしたり、サービス事業所と話し合い美容師に来てもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	問題点や改善すべき点などその都度、地域包括センターに相談し指導や助言をもらっている。また運営推進会議のメンバーに地域包括センターの職員に参加していただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等と密に話し合っ適切な医療が受けられるよう馴染みのかかりつけ医や施設協力医へのスムーズな受診を支援している。	○	事業所の協力医の他、訪問診療してもらうこともある。訪問リハビリなど利用者やご家族から希望があれば、主治医の許可を得たうえでやっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の受診時に職員が一緒に対応している。指示や助言をしっかりといただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が中心となって、健康管理について相談ができる体制を取っている。また薬についても医療機関や看護職員からの効能等アドバイスを受けながら管理・対応している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は馴染みのある職員が顔を見せ安心していただいている。また、病院関係者や家族とも受け入れ体制が整っている事等説明し連携を図っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について本人家族の希望を聞き、希望に添えるよう取り組んでいる。医療度の高い利用者は主治医とも話し合い、利用者にとってより良い対応が出来るようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の利用者への対応マニュアル等は作成していないが、医療機関と連携を図れるよう体制づくりをしている。また、職員も一人で抱えこまず不安なく対応ができるよう勉強会を開催する予定である。	○	すべての職員が不安なく対応できるよう勉強会を開催したい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境が変わることに対する不安を少しでも解消できるよう、情報提供やその後の情報交換を行っている。また、移り住む前の環境を密に連絡し合っ、馴染みややすい環境作りを努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底して行うよう常日頃注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事については体調に合わせて形態を変更し柔軟に対応している。外出や行事参加などについても本人の希望や好みを把握して対応できるよう努めている。また外食時には、本人に食べたいメニューを決めてもらっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムや体調に合わせてながら、希望に添った暮らしを提供できるように努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院への外出を希望されない方には美容師に来ていただいている。白髪染め等の提供も行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューについて利用者と話し合ったり、食事中には食材や料理などの話題を提供し楽しい時間になるよう努めている。利用者と職員と一緒に準備や片付けをしている。	○ 食事介助を必要とする利用者が増えている。できるだけ一緒に摂れるよう努めていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族や本人と相談し、コーヒーや好きなお菓子などを、日常的に楽しめるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の訴えのない利用者には時間排泄や言葉がけによる排泄介助を行いつつ、個人の排泄パターンを把握できるように努めている。また、その日の出勤者が排泄パターンや排便状況を把握できるよう、密に記録、申し送りを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ、個人の好むお湯の温度で提供している。時間帯は職員や施設行事及び受診等の都合で決めた入浴時間となっている。一人ひとりの希望やタイミングにあわせての入浴ができていない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯時間が決められているが、体調や生活習慣を検討しながら支援している。(昼寝など)		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室やホールの掃除、洗濯干しなどの家事や若い頃から好まれている踊りを披露していただく場を提供している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族などと相談しながら病院受診時に支払いをしていただいたり、買い物の際、ご自分で支払っていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候がよければ、できるだけ外出できるよう取り組んでいる。しかしながら、一人ひとりのその日の希望に沿えてはいない。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	時候に合わせて季節を感じて頂けるような外出計画を立て、家族に連絡し参加を促している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話使用の支援をしたり、はがきや手紙のやり取りができるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人などの訪問時には居室でのお茶を楽しんでいただいたり、和室・ソファなどで居心地よく過ごしていただけるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度の全体会議で話し合う。また日々のケアにおいて、職員同士が話し合い、拘束しないケアに取り組んでいる。	○	「どんなことがあっても拘束は行わない」という姿勢について周知徹底していくと同時に、身体拘束についての理解だけでなく安定や安全に向けたケアに取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に施錠しないよう取り組んでいるが、エレベーターはボタンひとつで呼ぶことができない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室で過ごされているときはプライバシーに配慮しながらの訪室や、コール対応などで昼夜を通して安全に過ごしていただいている。居室以外では常にプライバシーに配慮した見守りを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人や家族などと相談しながら一人ひとりの状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。(ハサミ・刃物・石鹸・化粧水など)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒・誤薬などの事故及びヒヤリハットの事例について全体会議やユニットのミーティングにおいて話し合い、事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署職員の方に来ていただき、救急時の対応について勉強会を実施、指導していただいている。年に2回定期的に開催している。	○	誤嚥など利用者の身体状態の急変や事故発生時に的確な対応ができるよう定期的な勉強会を行っていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防災訓練を行っている。地域の人々の協力を働きかけているが、まだ合同訓練は行っていない。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	消防指導により、災害時の避難誘導について指導を受けている。家族会でも説明し話し合う場を設けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	起床時や入浴前のバイタルチェックの記録や、介護記録の中の排便チェックや食事摂取量の状況、皮膚状態などの観察により体調変化を早期に把握できるよう努めている。また介護記録の記入への工夫や口頭での申し送りを速やかに行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食時の服薬確認と介護記録への記入を行い服薬確認と支援を行なっている。また介護記録とは別に受診ファイルを設け一人ひとりの薬の用法・用量などについて理解できるようファイリングしている。	○	全職員が服薬の確認を徹底しながら、一人ひとりの受診ファイルの確認をし、症状に対する理解、薬の情報を理解できるようにしたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表による排便の申し送りを行い個人の排泄について理解を深めている。出来るだけ下剤や浣腸薬を使用しないよう腹圧マッサージや飲食物などでの対応・運動への誘導に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個別の口腔状態に応じた支援をしているが、不十分な時がある(義歯洗浄、消毒・歯磨き支援、確認)	○	十分にゆすぎができていない方がいるので、食後及びおやつ後の口腔ケアを確実にし、口腔内清潔のための支援をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるメニューによって取り組んでいる。一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている。また食事摂取量の少ない入居者については、主治医と相談し、エンシュアリキッドなどの経口栄養剤により、捕食している。	○	水分摂取や尿量に波のある方について個別に細かく水分量を記録し、摂取量を把握し、必要量を確保できるように努めている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては利用者・職員全員が予防接種を受けている。受診できない場合は往診にて実施している為、文書を掲示している。ノロウイルスなど感染症についての知識を深め、必要な食材選びや手洗い・消毒などを指導徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	魚・野菜など近隣の商店にその日の食材を配達してもらっている。台所や調理用具については定期的な消毒を行い衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設周りに花を植え玄関ホールには季節毎の飾りつけをしている。気軽に出入りでき、誰にでも興味を持ってもらえるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に季節の花を活けるなどして季節感を取り入れている。浴室やトイレなどでは安心して居心地よく過ごせるよう配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いたり、和室で休んでいただけるスペースを設けている。	○	和室について十分な活用ができていないので空間を活用できるよう考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたダンスや椅子などの家具を使用したり、家族と相談して本人が好む椅子を購入していただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房を時間での対応をするのではなく、本人の体調や希望に合わせてこまめに行っている。	○	朝の掃除の時以外にも時間を決めて換気を心がけている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒時の骨折予防のため、圧縮素材のフロアを使用している。廊下には手すりを設けている。また歩行の障害となる物品を廊下に置かないようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	掃除や洗濯・片付けなどにおいて、洗濯物を干せる人、たためる人などわかる力を活かす支援に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	夏は玄関先で花火をしたり年末には建物の外周りで餅つきをしたり、プランターで花を作っており、出入りの時に楽しんでもいただいている。また屋上では洗濯物や布団を干している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

できるだけ利用者一人ひとりの想いに沿った支援ができるよう取り組んでいます。また担当者が担当利用者について、一番取り組みたい事を提示し、毎日の生活の中で行っています。くもん学習療法を希望者に実施しており、利用者への取り組みはもちろん、スタッフのコミュニケーション能力の向上に努めております。

利用者がこれまでの経験・特技を活かし、尊厳を持った生活を送れる最良の環境作りを常に心がけております。利用者一人ひとりの状態に合わせた生活リハビリを行い、日常生活および身体機能の、維持向上できるよう取り組んでいます。そのために 家族友人等・地域住民・地域行事・ボランティア等の関係を密にし、施設行事を地域により開放する事を目指しております。毎月複数組のボランティア訪問があり、利用者憩の時間を提供して頂いております。(歌・踊り・音楽 e t c)